

○小林有紀子\* 山口庸子\* 永山升三\*\*

(\*共立女短大, \*\*共立女大総文研)

【目的】近年、衣料用新素材繊維の開発が進み、特にテンセルは新セルロース繊維として定着しつつある。同じセルロース繊維である木綿や再生繊維レーヨンとは異なった風合いを持っており、さらに、家庭洗濯での取り扱いが多くなってきたことから、衣料の洗浄を行う上では、異なった取り扱いが必要であると予想される。そこで、本研究では、テンセルの汚染性及び洗浄性について検討を行い、その要因を考察した。

【方法】テンセルは、平織り及び綾織りの織り組織の異なる試料布を使用し、比較試料として綿カナキンの平織布の計3種類を使用した。奥村らの湿式人工汚染布の作成法に準じて、従来の汚染浴に加えて濃度の異なる汚染浴を5段階に調整し、汚れ量の異なる汚染布を作成した。これらの汚染布についてJIS指標洗剤に対する洗浄力試験を行い、洗浄力評価を行った。さらに、汚染布の污垢付着状態及び洗浄後の脱落状態についてマイクロスコープにより観察を行った。

【結果】実際に布上に付着した汚れ量から算出した污垢付着率は、K/S値と高い相関を示し、その回帰直線から、綿に比較してテンセルは高い汚染性を示した。一般に使用されている表面反射率42%前後の汚染布を用いた洗浄力試験では、テンセルの洗浄率は、綿に比較して比較的高いことが認められた。さらに、平織りのテンセルは綾織りと比較して高い洗浄率を示し、織り組織によって異なる洗浄性を示した。これら試料布の表面特性についてマイクロスコープにより詳細な観察から考察を行った。